

記載注意

- 二 不要文字ハ抹消スルコト  
二 特ニ急施ヲ要スル爲ニ事前ノ届出ヲ爲サザリ  
シトキハ急施ヲ必要トセル理由ヲ備考欄ニ、施

務ニ精厲シ勤勞報國ノ實ヲ學ゲ他ノ模範タルモノニ  
之ヲ授與スルモノトス

前項ノ規定ニ依ルノ外勤勞顕功章ハ工場、礦山又ハ  
前項ノ事業場ノ勤勞者ニシテ自己ノ危難ヲ顧ミズ其  
ノ職責ヲ盡シ其ノ行爲他ノ模範タルモノニモ之ヲ授  
與スルコトヲ得

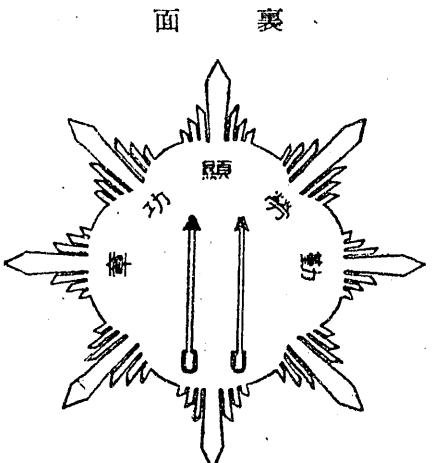
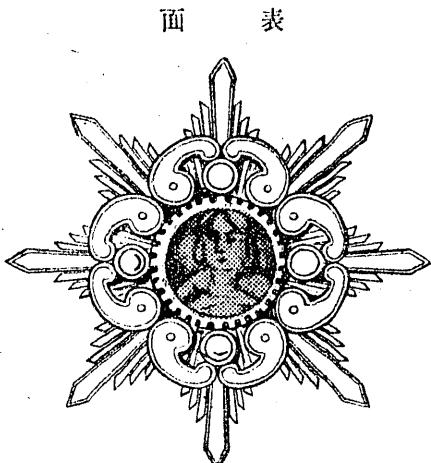
**第三條** 勤勞顯功章ハ厚生大臣之ヲ授與ス  
**第二條** 勤勞顯功章ノ形狀及制式附圖ノ如ク

本令中厚生大臣トアルハ陸軍又ハ海軍ノ事業ニ使用セラル勤勞者ニ關スル場合ヲ除クノ外朝鮮ニ在リ

テハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ滿洲國駐劄特命全權大使、樺太及南洋群島

ニ在リテハ拓務大臣トス

		表		地質		制式	
側面	裏面	ノ部	玉部	大サ	ノ神像部	銀	色
銀	銀	浮	彫	上	圖	金	通
色	色	丸玉—眞珠嵌入、 曲玉—銅色仕上、 側光—銀色梨地仕上、 中軸—銀色梨地仕上、 縁六—金色磨仕上	金	ノ	ノ	屬	
磨	磨	縁六—銀色磨仕上	色	通			
地	地						
仕	仕						
上	上						



## 面表

面 裏

# 勸業競功章令並に同令施行規則の八

勤勞勳章令並に同令施行規則は昭和十七年九月十九日付官報を以て左の如く公布せられた。

勤勞顯功章令  
(昭和十七年九月十八日  
勅令第六百五十二號)

**第一條 勤勞勳功章ハ工場、鑛山其ノ他厚生大臣ノ指定スル事業ヲ行フ事業場ノ勤労者ニシテ平素其ノ職**

## 勤勞顯功章令施行規則

(昭和十七年九月十九日  
厚生省令第四十五號)

場、鑛山又ハ事業場ノ勤勞者ニシテ其ノ職務ニ精勵シ勤勞報國ノ實ヲ擧ゲタルモノニ地方長官又ハ鑛山監督局勤勞章ヲ授與シテ之ヲ爲スモノトス

第一條 勤勞顯功章令第一條第一項ノ規定ニ依リ勤勞顯功章ヲ授與セラルベキ者ハ本令ニ定ムル地方長官又ハ鑛山監督

ヨリ之ヲ銓衡スルモノトス但シ特別ノ事情アルトキハ地方表彰ヲ受ケザル者ニ付テモ之ヲ銓衡スルコト

アルベシ

第二條 勤勞顯功章ヲ授與セラルベキ者ニハ其ノ授與前死亡シタルトキト雖モ仍之ヲ授與ス

第三條 勤勞顯功章ヲ授與セラレタル者受章者タルノ面目ヲ毀損スルニ至リタルトキハ之ヲ返納セシムルコトアルベシ

第四條 勤勞顯功章ヲ授與セラレタル者之ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ厚生大臣ハ願出ニ依リ之ヲ再下付スルコトアルベシ

第五條 勤勞顯功章ハ本人ニ限り終身之ヲ佩用シ遺族之ヲ保存スルコトヲ得

第六條 勤勞顯功章ヲ授與シタルトキ又ハ第三條ノ規定ニ依リ之ヲ返納セシメタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ公示ス

第七條 勤勞顯功章ハ式典其ノ他ノ廉アル場合ニ之ヲ佩用スルモノトス

第八條 地方表彰ハ勤勞顯功章令第一條第一項ノ工

第九條 勤勞章ノ形狀及制式附圖ノ如シ

第十條 勤勞章ハ之ヲ右肋ニ佩ブルモノトス

第十一條 第一條乃至第五條及第七條ノ規定ハ勤勞章ニ之ヲ準用ス但シ第四條中厚生大臣トアルハ地方長官又ハ鑛山監督局長トス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則

昭和十六年十二月厚生省令第六十四號勞務調整令施行規則中左ノ通改正ス

勞務調整令施行規則中改正ノ件

昭和十六年九月九日  
厚生省令第四十三號

(注意)「本期雇入計畫數」欄中「認可ヲ受ケテ雇入レントスル一般青壯年」中ニハ職業紹介規程第三章ノ適用ヲ受クル學校等ノ卒業者(昭和十六年十二月以後卒業シタル者ニ限ル)ニシテ卒業後二年ヲ經過セザルモノハ之ヲ含マシメザルコト

附則

本令ハ昭和十七年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

## 國民職業能力申告令中改正の件公布

國民職業能力申告令中改正の件は昭和十七年九月一日付官報を以て左の如く公布せられた。

國民職業能力申告令中改正の件

(昭和十七年九月一日  
厚生省令第四十二號)

昭和十五年十月厚生省令第四十三號國民職業能力申告令

第二條第六號ノ要申告者ニ關スル申告ノ特例ニ關スル件中左ノ通改正ス

第一條中「昭和十五年十月十九日」ヲ「昭和十六年十月十六日」ニ改ム

側	表				
	制				
地	質	銀	色	金	屬
大	サ	上	圖	ノ	通
裏	神像ノ部	浮	膨	銀	色
裏	玉ノ部	丸	玉銀	色	磨仕上
面	曲玉	玉	銅	色	磨仕上
銀	色	梨	地	仕	上
色	磨	地	仕	上	

